

事務局報告

第2回奨励賞

日本植生史学会表彰規定(2002年11月17日制定)に則って、奨励賞の審査委員会を設置し、審査を行なった。その結果、第2回奨励賞に以下の1件の論文を推薦することにした。

第2回奨励賞 受賞論文：鈴木伸哉・能城修一「東京都中央区八丁堀三丁目遺跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種」植生史研究 第12巻：75-86。

第2回奨励賞受賞者推薦理由（日本植生史学会奨励賞審査委員会委員長 辻 誠一郎）

本論文は、17世紀前半を主体とする江戸の一般都市住民層の墓域から出土した木棺について、樹種の同定および木取り・厚さの計測を行い、当時の身分・階層差の影響、および森林資源枯渇の影響を評価したものである。

本論文の研究の手法は、遺跡から出土する木製遺物の樹種同定と木取り・形状の観察という、これまでの調査・研究によって確立されてきた方法を基礎としている。それにもかかわらず、身分・階級差の影響や森林資源の枯渇の影響についての評価が明確であり、論文としての完成度が高いのは、墓域から出土での成果との議論が密接に展開し、無理のない説得性のある議論が展開されているためである。近世は文献も多いため、生産・消費・流通の様相がよく分かっていると誤解されがちだが、とりわけ一般住民層については分かっていないことの方が未だ多い。そうした中で本研究は、考古学・歴史学をカバーする植生史研究の領域開拓を果たしており、近世以前への研究をも展望させる。

以上のように本論文は、若手研究者の研究を奨励することを主旨とする奨励賞に値するものと評価でき、受賞論文に推薦する。

第23回（2004年度第3回）幹事会議事要録

日時：2004年6月19日14:15～17:00

場所：国立歴史民俗博物館

出席者：辻会長、江口庶務幹事、斎木会計幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、清永行事委員長、辻行事副委員長

1. 評議員定数について、現行の会員50名に対し1人の選出割合を、会員100名に対し1人とする会則改正案を作成することとした。
2. 奨励賞審査委員会の構成員を、会長、編集委員長、会長より任命された会員3名とする表彰規定の改正案を作成することとした。
3. 正会員会費を4,000円に値上げする案を総会に提出することとした。

4. 会費の長期滞納者に対し督促状を発送する。

5. 会誌特別第2号「三内丸山遺跡の生態系史」の刊行案が承認され、編集は能城編集委員長のもと辻会長、佐藤宏之氏、会誌編集委員が行なう。

6. 会誌編集関係の書類は、著者の返却希望がない限り過去3年間分は保管するが、それ以前のは処分することを確認した。

7. 今後の大会シンポジウム講演者には、会長名で発表の依頼状を発行し、当該大会の懇親会に招待することを確認した。

第24回（2004年度第4回）幹事会議事要録

日時：2004年9月25日14:00～17:00

場所：国立歴史民俗博物館

出席者：辻会長、江口庶務幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、紀藤編集副委員長、辻行事副委員長

1. 年会費を一般会員4,000円、団体会員6,000円、賛助会員一口15,000円とする会則付則2の改正案を総会に提出することとした。
2. 年会費を3ヶ年滞納した会員で、督促状の送付後にも納金されない場合は除名することを、評議員会に発議することとした。
3. 会誌第1号南木論文、第2巻第2号鈴木・吉川論文、第7巻第2号吉川論文の転載申請を承諾した。
4. 会誌既刊号の残部数をホームページで公表する。

第25回（2004年度第5回）幹事会議事要録

日時：2004年11月27日9:15～10:45

場所：中央大学 後楽園キャンパス

出席者：辻会長、江口庶務幹事、斎木会計幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、紀藤編集副委員長、清永行事委員長、辻行事副委員長

1. 2004年度評議員会・総会での報告事項および審議事項を最終確認した。
2. 第2回奨励賞が審査によって決定されたことが報告された。
3. 会誌既刊号の送料について2冊以下を200円、3冊以上を400円に統一することとした。
4. 海外向け雑誌交換の対応を検討する。
5. 役員に対する旅費の支給範囲を検討する。
6. ホームページ内の連絡先を一本化することで検討を進める。
7. 第23回談話会を2005年4月下旬山口県内において見学会形式で開催することとした。

8. 次回の幹事会は2005年1月8日14:00から東京大学にて行う。

2004年度評議員会議事要録

日時：2004年11月27日11:05～12:55

場所：中央大学 後楽園キャンパス

出席者：辻会長、百原、鈴木、植村、西田、南木、山田評議員；江口庶務幹事、齋木会計幹事、佐々木広報・渉外幹事、能城編集委員長、清永行事委員長

1. 2004年度の事業報告および会計報告・会計監査報告(総会資料)を承認した。
2. 2005年度事業計画の幹事会案を審議した。主な案件は以下の通りである。
 - 1) 会費の長期滞納により8名の会員の除名を決定した。
 - 2) 会長選挙を先行して行ない、その結果報告の後に評議員選挙を行なうこととした。
 - 3) 学会運営に若手会員を加えることを確認した。
 - 4) 学会賞・奨励賞審査委員会は十分な意見交換を行なう機会を設定することとした。
 - 5) 学会賞の審査においては前年の評議員会で公募結果を報告することとした。
 - 6) 日本学術会議会員候補者については各評議員からの投票をもとに会長が決定し情報提供を行なうこととした。
 - 7) 会誌特別第2号「三内丸山遺跡の生態系史」刊行は年度内に行なうことを確認した。

2004年度総会議事要録

日時：2004年11月28日11:40～12:45

場所：中央大学 後楽園キャンパス

議長：植村和彦

1. 報告事項

1. 会員の除名

会費の長期滞納により8名の会員を除名した。

2. 2004年度事業報告

2-1. 庶務

- 1) 会員動向：2004年9月30日現在、名誉会員2名、賛助会員1社、一般会員350名、学生会員33名、団体会員5団体。

2-2. 広報・渉外

- 1) ニュースレター3号を編集・刊行した。

2-3. 編集

- 1) 会誌「植生史研究」第12巻第1号、第2号を刊行した。

2-4. 行事

- 1) 第18回大会を2003年11月29・30日、岡山理科大学において開催した。

大会実行委員長：三好教夫 大会実行委員：守田益宗、池田博、寺田和雄、清永丈太、半田久美子 参加者：

124名

2) 第22回談話会を2004年3月20・21日、千葉県多古町・千葉県立中央博物館において開催した。

テーマ：植生史解明のための野外調査法その1「ボーリング実習」

講師：叶内敦子、宮橋美弥子、神谷千穂、奥田昌明

世話人：清永丈太、辻圭子、江口誠一 参加者：17人

3) 第19回大会を2004年11月27・28日中央大学において開催すべく準備した。

大会実行委員長：西田治文 大会実行委員：清永丈太、辻圭子

2-5. 会計

1) 2004年度決算報告(2003年10月～2004年9月)

収 入		(円)
会費		1,119,000
団体・賛助会員会費		35,000
会誌売上		166,090
寄付(第18回大会準備委員会)		140,360
利息		4
前年度繰越金		529,728
合 計		1,990,182

支 出		(円)
会誌発行費	会誌印刷費 12(1)	325,500
	会誌印刷費 12(2)	325,500
会誌郵送費	会誌郵送費 12(1)(2)	53,330
郵送費	ニュース紙等郵送費	63,230
事務経費	一般事務経費	68,395
大会準備金	大会準備金	100,000
支出合計		935,955
次年度繰越金		1,054,227

2) 2004年度会計監査報告

「日本植生史学会2004年度収支の諸帳簿、預金通帳および諸書類などを厳正に監査しましたところ、適正に処理されておりましたので報告します。」会計監査：大井信夫

2-6. 第2回奨励賞の推薦

表彰規定に則って奨励賞の審査委員会を設置し審査を行った。その結果、第2回奨励賞に以下の1件の論文を推薦することにした。

第2回奨励賞 受賞論文：鈴木伸哉・能城修一「東京都中央区八丁堀三丁目遺跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種」、植生史研究 第12巻：75-86。

2. 審議事項

1. 評議員定数の改正

評議員の定数に係る会則第8条の改正案が提出され、承認された。

「会則第8条 評議員の定数は選挙の行われる年度の正会員数を100で割った値とし、端数は繰り上げる。(抜粋)」

2. 年会費の改正

年会費に係る会則付則2の改正案が提出され、承認された。

「会則付則2 年会費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円、団体会員6,000円、賛助会員一口15,000円とし一口以上とする。」

3. 奨励賞審査委員会の構成員の変更

奨励賞審査委員会の構成員に係る表彰規定の改正案が提出され、承認された。

「表彰規定2.c. 奨励賞の審査委員会は、会長、編集委員長、会長より任命された会員3名で構成される。」

「表彰規定2.d. 学会賞の審査委員会は、会長・評議員に加え会長より任命された会員で構成される。」

4. 2005年度事業計画

4-1. 庶務

1) 事務局を千葉県立中央博物館に移す。期間は2005年1月1日から約1年間とする。

2) 第5期会長・評議員の選挙を行なう。

3) 2004年度評議員会・総会を2004年11月27・28日中央大学において開催する。

4-2. 広報・渉外

1) ニュースレター4号を発行する。

4-3. 編集

1) 会誌「植生史研究」第13巻第1号・第2号、第14巻第1号・第2号を編集し、刊行する。

2) 会誌特別第2号「三内丸山遺跡の生態系史」を編集し、刊行する。

4-4. 行事

1) 第19回大会を2004年11月27・28日中央大学において開催する。

2) 第23回談話会を2005年4月下旬山口県内において見学会形式で開催する。

テーマ：縄文時代のスギ埋没林と古代の銅採掘跡遺跡を訪ねて(仮題)

3) 第20回大会を2005年12月10・11日京都府立大学において開催すべく準備する。

シンポジウムテーマ：縄文から弥生にかけての近畿の環境史—考古と古植生のデータで「変動期」を考える(仮題)
大会実行委員長：高原 光 大会実行委員：湯本貴和

4-5. 2005年度予算案(2004年10月～2005年9月)

収 入	(円)
会費	1,466,000 *1
団体・賛助会員会費	45,000
会誌売上	100,000 *2
特別号(2)売上	1,200,000
前年度繰越金	1,054,227
合 計	3,865,227

*1: 一般会員350人学生会員33人

*2: 3,000円/冊×400冊

支 出	(円)
会誌発行費	編集印刷費 13(1,2)14(1,2) 1,680,000 *3
	編集印刷費特別号(2) 997,500
会誌郵送費	会誌郵送費 13(1,2)14(1,2) 120,000 *4
大会準備金	大会準備金 100,000
郵送費	ニュース紙等郵送費 70,000
	郵送補助(人件費) 80,000
	事務局移転費 20,000
	選挙関連費用 70,000
事務経費	一般事務経費 70,000
	各賞状等 20,000
	幹事会出席旅費 80,000
	封筒印刷費 80,000
	名簿発行積立金 50,000
その他	予備費 427,727
支出合計	3,865,227

*3: 1号420,000円

*4: 1号30,000円

賛成多数で承認された。

日本植生史学会第19回大会

2004年11月27・28日の2日間、中央大学後楽園キャンパスにおいて、中央大学の共催を得て第19回大会が開催された。詳細は以下の通りである。

会場：中央大学後楽園キャンパス(文京区春日1-13-27)
大会実行委員長：西田治文、同委員：清永丈太、辻 圭子
日程：11月27日(土)シンポジウム、奨励賞授与式及び記念講演、学会賞記念講演、懇親会

11月28日(日)：一般研究発表、総会

シンポジウム「先史時代におけるウルシの利用」(世話人：能城修一)

山田昌久：出土漆製品を研究する視点と手法—縄文時代漆器を中心として—

永嶋正春：縄文時代の漆技術

佐々木由香・能城修一：遺跡出土木材と果実からみた縄文時代のウルシの利用

叶内敦子・神谷千穂：ウルシ属花粉の識別について

一般研究発表(口頭発表)

綿邊正巳・岩崎知久・古野 毅：島根県、佐田町・横見埋没林の古植生と埋没年代について

鈴木 茂・石綿しげ子・村田泰輔：東京湾多摩川河口付近の環境変遷

稲田 晃・大浜和子・金子静子・金子陽子・志水里見・島村健二：千葉県成田市印旛沼低地・沖積層からのハリゲヤキ属花粉の産出

片村文崇・福田正己・Nikolai P. Bochkov・Roman V. Desyatkin：東シベリアにおけるサーモカルスト湖堆積物の花粉・炭化片の変遷

沖津 進：北東アジア大陸部に分布する大陸型落葉広葉樹林、モンゴリナラ-ヤエガワカンバ林の構造と植生変遷史上の意義

百原 新：化石群構成種の分布限界気温に基づく古気温推定の問題点

鈴木伸哉・能城修一：新宿区崇源寺・正見地跡より出土した江戸時代の木棺の形態と樹種

木村勝彦・斎藤智治・荒川隆史：コナラ属柱根を用いた青田遺跡の建物群の編年

生方正俊・上野真一・平岡裕一郎：ケヤキの葉緑体 DNA 多型の地理的変異から分布の変遷を推定する

一般研究発表（ポスター発表）

林 竜馬・牧野真人・井上 淳・高原 光：琵琶湖東岸部曾根沼周辺における晩氷期以降の火事と植生変遷

福嶋 徹・大澤 進：狭山丘陵・谷ツ粘土層（下部更新統上総層群）産出の大型植物化石

河野樹一郎・野村敏江・佐々木尚子・高原 光・柴田英昭・植村 滋・吉岡崇仁：北大雨龍研究林泥川湿原におけるアカエゾマツ林の成立過程—植物珪酸体および花粉分析の適用—

鈴木伸哉・南木睦彦：江戸の墓から出土したコショウ

高橋 敦：千駄ヶ谷五丁目遺跡から出土した下駄をはじめとする江戸の木製品

植田弥生・佐々木由香・明治大学校地内遺跡調査団：明治大学和泉校地遺跡（新教育棟地点）から出土した後期旧石器時代の炭化材の産状と樹種構成

工藤雄一郎・佐々木由香：東京都東村山山下宅部遺跡から出土した縄文時代のクルミ塚

佐々木由香・工藤雄一郎：東村山山下宅部遺跡クルミ塚出土の大型植物遺体からみた縄文時代の植物利用

住田雅和・辻 誠一郎・阿部美和：宮城県山王遺跡から出土した種実遺体群

能城修一・鈴木三男：縄文時代前期以降のウルシの出土状況を見直す

塚腰 実：西南日本における新生代イチョウ葉化石の新産地

植村和彦・矢部 淳・西田治文・山田敏弘・奥田昌明・Miguel Rancusi H.：フエゴ島（チリ共和国）の中新世界ナンキョクブナ植物群

会員動向（2004年7月～9月）

新入会員

岐阜県立森林文化アカデミー（団体）

〒501-3714 岐阜県美濃市曾代 88

Tel: 0575-35-2525

清水 香（学生）

國学院大学

（自宅）〒187-0032 小平市小川町 1-781PA アートヴィレッジ 2-205

Tel: 042-342-5275

東條 栄喜（一般）

高エネルギー加速器研究機構素核研第4研究系

〒305-0801 つくば市大穂 1-1

Tel: 029-879-6050

福嶋 徹（一般）

武蔵村山市議会

（自宅）〒208-0003 東京都武蔵村山市中央 3-20-7

Tel: 042-567-1095

星野 大介（一般）

森林総合研究所東北支所育林技術研究グループ

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-25

Tel: 019-648-3943

吉田 明弘（学生）

東北大学大学院理学研究科地理学教室

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

Tel: 022-217-6637

退会会員

伊藤浩司, 酒井暁子, 菅沼 亘, 都築恵美子, 馬場 篤, 福原恵子, 古市光信, 水谷陸彦, 森脇 賢, 山崎雅恵

第4期日本植生史学会役員

（任期：2003年10月1日～2005年度大会）

会長：辻 誠一郎

評議員：百原 新, 鈴木三男, 植村和彦, 西田治文, 南木睦彦, 山田昌久, 高原 光, 松下まり子

会計監査：大井信夫

幹事：江口誠一（庶務）, 斎木健一（会計）, 佐々木由香（広報・渉外）

編集委員会：能城修一（委員長）, 紀藤典夫（副委員長）

行事委員会：清永丈太（委員長）, 辻 圭子（副委員長）